

知的障害生徒における 発達年齢と情報モラル習得との関係

個別アンケート調査からの考察

ためかわ ゆうじ

爲川 雄二

東北大学大学院教育学研究科

tamechan@tohoku.ac.jp



TOHOKU
UNIVERSITY

イントロダクション：近年の動向と問題

- ICTの光と影
 - 特別支援教育での多様な応用可能性
 - 障害のある子どもの日常に負の影響が危惧（特に知的障害）[1][2]
- 特別支援学校入学者の増加[3]
 - 特に高等部が顕著[4]
- 特別支援教育就学奨励費によるタブレットPCの購入補助



[1] 江田祐介（2015）『特別支援教育におけるICTの活用と情報モラル教育に関する研究』（科学研究費助成事業 研究成果報告書）

[2] 水内豊和，武蔵博文（2010）『知的障害者の情報機器の活用実態調査』 富山大学人間発達科学部紀要，4(2)，pp.75-80.

[3] 文部科学省（2017）『学校基本調査－平成29年度結果の概要－』

[4] 国立特別支援教育総合研究所（2010）

『知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究』

情報モラル指導モデルカリキュラム

- 日本教育工学会(JAPET)の「情報モラル等サポート事業」
 - 2005年から3年間、文部科学省の委託で展開
 - 学校現場での先進的な情報モラルの指導事例が収集
- 「情報モラル指導モデルカリキュラム表」として体系化^[5]
 - 指導すべき情報モラルの内容を5分野に設定
 - 学年進行に応じて5段階の指導内容が記載
(小学校(低・中・高)・中学校・高等学校)
 - ※いわゆる 定型発達の子供生徒が対象
 - ※知的障害の有無は考慮されていない

情報モラル指導モデルカリキュラム表

この表は、情報モラルの指導を支援するための指導内容の体系化を図ることを目的として作成されたものです。各学校の実情に応じて、指導内容を調整して活用してください。

※指導内容の記載は、各学校の実情に応じて調整してください。

学年	1. 情報モラルの基礎	2. 情報の収集・発信	3. 情報の活用	4. 情報の保護	5. 情報の活用
小学校(低学年)	1-1 情報の基礎知識(情報の定義、情報の種類、情報の伝達方法など)を学ぶ。	2-1 情報の収集(インターネット、テレビ、新聞など)の方法を学ぶ。	3-1 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。	4-1 情報の保護(情報の保護方法、情報の保護場面など)を学ぶ。	5-1 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。
小学校(中学年)	1-2 情報の基礎知識(情報の定義、情報の種類、情報の伝達方法など)を学ぶ。	2-2 情報の収集(インターネット、テレビ、新聞など)の方法を学ぶ。	3-2 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。	4-2 情報の保護(情報の保護方法、情報の保護場面など)を学ぶ。	5-2 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。
小学校(高学年)	1-3 情報の基礎知識(情報の定義、情報の種類、情報の伝達方法など)を学ぶ。	2-3 情報の収集(インターネット、テレビ、新聞など)の方法を学ぶ。	3-3 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。	4-3 情報の保護(情報の保護方法、情報の保護場面など)を学ぶ。	5-3 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。
中学校	1-4 情報の基礎知識(情報の定義、情報の種類、情報の伝達方法など)を学ぶ。	2-4 情報の収集(インターネット、テレビ、新聞など)の方法を学ぶ。	3-4 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。	4-4 情報の保護(情報の保護方法、情報の保護場面など)を学ぶ。	5-4 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。
高等学校	1-5 情報の基礎知識(情報の定義、情報の種類、情報の伝達方法など)を学ぶ。	2-5 情報の収集(インターネット、テレビ、新聞など)の方法を学ぶ。	3-5 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。	4-5 情報の保護(情報の保護方法、情報の保護場面など)を学ぶ。	5-5 情報の活用(情報の活用方法、情報の活用場面など)を学ぶ。

[5]社団法人日本教育工学会 (2007) 『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』
http://jnk4.info/www/moral-guidebook-2007/kickoff/pdf/moralguide_all.pdf

情報モラル指導モデルカリキュラム表

<大目標・中目標レベル>

分 類	L1：小学校1～2年	L2：小学校3～4年	L3：小学校5～6年	L4：中学校	L5：高等学校
1. 情報社会の倫理	a1～3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ			a4～5: 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす	
	a1-1: 約束や決まりを守る	a2-1: 相手への影響を考えて行動する	a3-1: 他人や社会への影響を考えて行動する	a4-1: 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	a5-1: 情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす
	b1～3: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する			b4～5: 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する	
	b1-1: 人の作ったものを大切に する心をもつ	b2-1: 自分の情報や他人の情報 を大切に する	b3-1: 情報にも、自他の権利がある ことを知り、尊重する	b4-1: 個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重 する	b5-1: 個人の権利（人格権、肖像権など）を理解 し、尊重する
2. 法の理解と遵守	c2～3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる			c4: 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る	c5: 情報に関する法律の内容を理解し、遵守する
	c2-1: 情報の発信や情報やりとりする場合のルール・マナーを知り、守る			c4-1: 違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	c5-1: 情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する
	c3-2: 「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する			c4-2: 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	c5-2: 情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する
	c3-3: 契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない			c4-3: 契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する	c5-3: 契約の内容を正確に把握し、適切に行動する
3. 安全への知恵	d1～3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる			d4～5: 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する	
	d1-1: 大人と一緒に使い、危険に近づかない	d2-1: 危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-1: 予測される危険の内容がわかり、避ける	d4-1: 安全性の面から、情報社会の特性を理解する	d5-1: 情報社会の特性を意識しながら行動する
	d1-2: 不適切な情報に出合わない環境で利用する	d2-2: 不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-2: 不適切な情報であることを認識し、対応できる	d4-2: トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	d5-2: トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ
	e1～3: 情報を正しく安全に利用することに努める			e4～5: 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける	
	e1-1: 情報には誤ったものもあることに気づく	e2-1: 情報には誤ったものもあることに気づく	e3-1: 情報の正確さを判断する方法を知る	e4-1: 情報の信頼性を吟味できる	e5-1: 情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる
	e1-2: 知らない人に、連絡先を教えない	e2-2: 個人の情報は、他人にも教えない	e3-2: 自他の個人情報、第三者にも教えない	e4-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	e5-2: 自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる
	f1～3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる			f4～5: 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる	
	f1-1: 決められた利用の時間や約束を守る	f2-1: 健康のために利用時間を決める	f3-1: 健康を害するような行動を自制する	f4-1: 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-1: 健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる
4. 情報セキュリティ	g2～3: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る			g4～5: 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける	
	g2-1: 認証の重要性を理解し、正しく利用できる			g4-1: 情報セキュリティの基礎的な知識を身に付ける	g5-1: 情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、適切な行動ができる
	h3: 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる			h4～5: 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる	
	h3-1: 情報の破壊や流出を守る方法を知る			h4-1: 基礎的なセキュリティ対策が立てられる	h5-1: 情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる
5. 公共的なネットワーク社会の構築	i2～3: 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ			i4～5: 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる	
	i2-1: 協力し合ってネットワークを使う	i3-1: ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	i4-1: ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1: ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する	

※コードについて (例: a1-1)

【1 桁目の文字】

a～: 大目標項目

【2 桁目の数字】

校種・学年 (L1～L5)

1: L1 (小学校低学年: 1～2年生)

2: L2 (小学校中学年: 3～4年生)

【3 桁目の数字 (ハイフンの後の数字)】

大目標項目内の一連番号

3: L3 (小学校高学年: 5～6年生)

4: L4 (中学校 (高等学校を含む場合もある))

5: L5 (高等学校)

この表は、情報モラルの指導カリキュラムの内容を小中高一貫のモデルカリキュラムとして示したものです。このモデルカリキュラムの目標は、学校教育全体の中で達成していくことが望ましく、本モデルカリキュラムを参考にして、それぞれの学校では、地域の実情に合わせ、情報モラルのカリキュラムを組み立て、実施してください。

各目標の詳細は、Webページをご覧ください。 <http://www.japet.or.jp/moral-guidebook/>

たとえば、コード a1-1 は次を表す。

大目標項目 a1: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ (小学校1～2年生)

中目標項目 a1-1: 約束や決まりを守る (小学校1～2年生大目標項目 a1 の1 番目の中目標)

特別支援教育と発達アセスメント

- 知能検査・心理検査・発達検査などのアセスメント（発達アセスメント）
 - 個々の児童生徒の実態把握のために利用
 - 対象児と対面で実施するものや、
対面不要で教員や保護者が対象児について回答するものなど
 - 精神年齢や発達年齢などを数値で得られる
 - 利用されている発達アセスメントは学校や対象児によってさまざま



対面で実施する検査の例
(田中ビネー知能検査V)



対面不要な検査の例
(S-M社会生活能力検査)

本報告

- 特別支援学校に在籍する知的障害生徒を対象に調査

- 情報モラル指導に求められる内容
- ネットトラブルと発達水準との関係
- 知的障害生徒の情報モラル習得の特徴

……を考察